



# 避難所ってどんなところ??

～被災して生活する場所を失った時のために～

災害が起こると、たびたびニュースで取り上げられる、「避難所」。よく耳にする言葉ですが、どんなところか知っていますか？

また、災害の種類によって、避難所が開設される場所や条件、タイミングが異なることを知っていますか？

普段から知識を備えておき、発災時にスムーズに行動できるようにしておきましょう。



## ◆避難所（ひなんじょ）とは？

災害によって被害を受け、生活する場所を失った人が、災害後、一時的に生活する場所。避難所で一緒になった方々は、避難所の一員として協力して共同生活を送ります。地震の場合は一定期間、風水害の場合は一晩から数日の滞在が一般的です。

★発災後もなるべく自宅で生活できるよう備えましょう。自宅での生活が困難な場合も、避難先の選択肢は避難所だけでなく、親戚避難など幅広く考えましょう。

《避難先の選択肢》

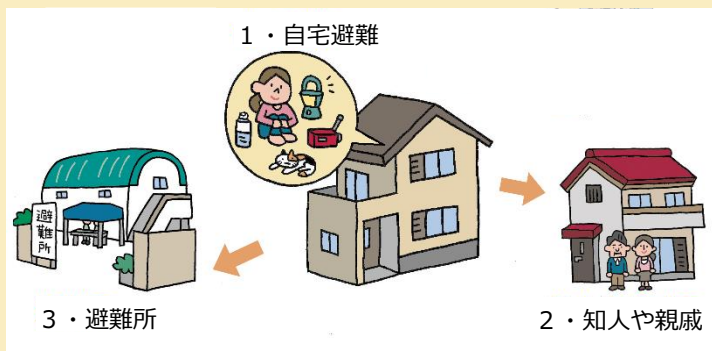
まず、①自宅



次に、②知人や親戚宅



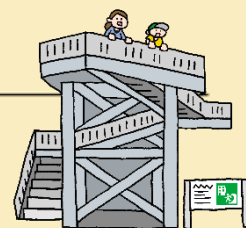
最後に、③避難所



## ◆避難場所（ひなんばしょ）とは？

地震や津波、土砂崩れなどの災害により命に危険が迫っている際に、身の安全を確保するための場所。

例：津波避難タワー、高台広場、学校のグラウンド等



## ◆風水害・土砂災害の避難所



場 所

公民館・小中学校・一部地域の防災施設

開設の  
タイミング

市から避難情報が発表された時

※避難情報発表時には該当地区で避難所が開設されています。テレビのdボタン、焼津市公式LINE、やいづ防災メール、市HPなどから開設状況を確認できます。

開設者

市役所職員

運営者

避難所に避難する人全員

持ち物

非常持出品など、1～2日生活するために必要なもの。調理不要の食べ物、飲み物など

避難所では、避難者みんなで協力して生活します。それぞれできることをやりましょう。

## ◆地震・津波の避難所



場 所

小中学校・一部高校・地域の防災施設など

開設の  
タイミング

津波避難や消火活動、安否確認などの初動対応が終わり、施設が使える状態だと判断された後

開設者

地域の自主防災会（自治会・町内会）

運営者

避難所に避難する人全員

持ち物

非常持出品や備蓄品など、当面生活するために必要な身の回りのもの

約半日から数日以降

## ◆安否確認場所とは？

地震や津波などの大規模な災害の後、住民の安否を確認するための場所で、各自治会・町内会で決まっています。安否確認は、災害復興のために重要です。

★焼津市作成の「わが家の安否確認カード」は、災害時に使う、安否確認のためのツールです。

実災害時には、1人でも多く命を救うためにご活用ください。

自治会（ 区 ） 町内会 組				提出日時	
氏名 （※提出者）				年 月 日 時 分	
連絡先 （※提出者）					
家族・世帯の総人数	人	安否確認できた人	大人	人	
安否不明家族の人数 ※下段に詳細を記入してください。	人		高校生	人	
			中学生	人	
			小学生	人	
自宅の状態 / <input type="checkbox"/> 居住可能 <input type="checkbox"/> 半壊 <input type="checkbox"/> 全壊				未就学児	人
安否不明の家族について				※安否不明者がいる場合に記載をしてください。	
名 前	性別	年齢	その他伝えたい情報		
		歳			
		歳			
		歳			
		歳			